布団とわたし

布団といえば父の布団だ「ライビ色」のドンスの布団だ　こんもりしていた

子供の布団はぬがつんっていたようだ

大きくなってから　ぬにつくりかけの布団のはじをきちんともって」といわれて手伝った

ことがある

赤線のわたはすもい　今考えると一度づけた

丁度ちいくらいだ

次はかるい「かけ布団」　このわたは何だろう

しばらくこのかるい「かけ布団」だった

このかるい布団を使うのは出化的だと思っていた　自分で作ったわけでもないのに、その

時その時で生活の仕方がどんどん変化して行く

それにのって行くことが楽しでいると

思っていた

よいよいよ羽毛だ　敷布団は重い布団の重さ

が「かけ布団」を「羽毛にした　どこでその情報を

得たのかわすれたが「羽毛と羽」と年々だった

そのかけ布団を二枚かさねて使用　最後の敷

気分だった　ところが羽毛　百%のものが
出て来た　半分のを一生懸命ちぎったのに
やむなく百%の羽毛を使用した　が、しかし
だ　これはかさいがまってよ　これは使えく
ないできない（現在は出来るようだが）
羽毛をつめこんだ布がうすすぎたため　現在も
その布団　これはいやだ
せいたくが敵をもった
通販で布団をいえば
ひとなかれ、　かけしき　は枚と二万つていた
が布団は「グラム、」と安さで表示されている
ものたそのものよりその単価におどろいた
布団を安さで買うなんて、　とりあえず五百グ
ラムを二枚買った　つつみこむ物にあたたか
い　これはいいと思っていたら夏が来た
それは夏はさりだ　その時「がーぜケット」を
買つかた　五枚がさねのがーゼ　これは
やさしくていい、　冬でも使用が十分保温できる
自分の一生と共に来た布団は快適な生活を
ささえてくれた